

(対象事業：地域の中核館として他館や他機関と連携して行う事業)

## 事業名：石見地方における美術館運営に関する共同研究

事業者名：いわみ美術回廊（代表 寺尾 堂）

連携事業館名：いわみ美術回廊加盟館（津和野町立安野光雅美術館・今井美術館・葛飾北斎美術館・浜田市世界こども美術館・益田市立雪舟の郷記念館・杜塾美術館・島根県芸術文化センター建設室

住所：島根県浜田市野原町 8 5 9 番地 1

TEL：0 8 5 5－2 3－8 4 5 1

FAX：0 8 5 5－2 3－8 4 5 2

HPアドレス：

### ①施設概要

2002年4月、島根県西部にある絵画系の7つの美術館が「いわみ美術回廊」を結成した。公・私立の別にかかわらず「地方の美術館の連携」を深め、地方美術館の活性化を狙う全国的にも非常に珍しい試みとして注目されている。

### ②事業の意図目的

近年、地方の美術館の不振が指摘されることが多いが、「いわみ美術回廊」加盟館は、それぞれの個性を活かした独自の運営を行いつつお互いに連携することで集客力をアップさせ、地方文化の向上に寄与している。加盟館は、更なる活性化の方法について模索しているところである。この事業によって、更に地方美術館の活性化の道を探り、更なる地方文化の発展を図りたい。

### ③事業概要

「いわみ美術回廊」加盟の7館と平成17年度開館予定の島根県立石見美術館の学芸員・職員が、それぞれの館の運営について共同研究を行い、その成果を世に問うための公開の研究発表会を開催し、さらに『石見美術』においてその成果を発表した。

- ・ 美術館の共同のPR活動の実施
- ・ 美術館運営についての事例発表会の実施
- ・ 公開研究発表会の開催
- ・ 研究成果を掲載した『石見美術』特別号の刊行

### ④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（ ）  
 作成した報告書等  
 ビデオ（ ）  
 冊子（「石見美術」第3号 特集 石見地方における美術館運営に関する共同研究）  
 その他（ ）

### ⑤参加者状況

参加者人数	延べ	4080	人
内 訳			
	BB大鍋フェスティバル2004年	3000	人
	美術回廊フェスタ	1000	人
	共同研究発表会	80	人

### (1) 事業の実施状況について

2002年4月、島根県西部にある絵画系の7つの美術館が「いわみ美術回廊」を結成した。これは、公私立の別にかかわらず、「地方の美術館の連携」を深め、地方美術館の活性化を狙う全国的にも非常に珍しい試みである。

昨年度まで、3回のシンポジウムの開催・学芸員の交流と研修・各施設における他館の展示情報の紹介・共同のリーフレットやポスターの発行などを通して、地方の美術館の魅力を訴えてきた。そして、2003年2月には、加盟館の学芸員・職員による石見地方の文化・芸術についての研究成果を発表する『石見美術』創刊号を発刊した（平成16年度までに2号発刊）。これらの活動により、7館の入場者数は増加し、昨年度の入館者数は25万人（推定）であった。

これらの事業を受けて、本年度、「いわみ美術回廊」加盟館と平成17年度開館予定の島根県立石見美術館の学芸員・職員がそれぞれの館の運営について報告し、今後のあり方についての展望を述べる研究会および共同研究発表会を下記の通り実施した。

○9月10日（金） 石正美術館において「いわみ美術回廊」会議を開催。

葛飾北斎・今井・安野光雅美術館の3館をのぞく5館から7名が出席。個々の美術館の現状や美術館活性化の取り組みの様子について報告した。

○1月26日（水） 石正美術館において「いわみ美術回廊」会議を開催。

安野光雅美術館を除く7館より9名が出席。加盟館の現状と今後の展望についてそれぞれ研究発表した。

○2月5日（土） 三隅中学校・音楽ホールにおいて共同研究発表会開催。

加盟館のうち3館が活動報告。これを受けて足立明男氏（山口県立萩美術館・浦上記念館館長）が、美術館同士の連携のあり方について提言を発表。最後に、グラントワ職員が、同館開館後のいわみ美術回廊の既存7館との連携について意見を述べた。

○3月31日（木） 共同研究成果及び2月5日の共同研究発表会の模様を掲載した『石見美術』第3号の刊行

### (2) 地域との連携について

本年度、「いわみ美術回廊」加盟館と平成17年度開館予定の島根県立石見美術館の学芸員・職員は、石見地方の文化の活性化に寄与するべく下記のような活動を行った。

○11月3日（水） 浜田港において「BB大鍋フェスティバル2004年」開催  
同フェスティバルにおいて、8館（ぐらんとわを含む）のPRを行った。

○11月13日（土） 益田市石西文化会館において「美術回廊フェスタ」開催。

グラントワ開館前イベントとして、赤瀬川源平氏と山下祐二氏の対談はじめ、多くの催しを開催。美術回廊加盟館は本事業に積極的に協力した。

### (3) 成果物について

3月31日(木)、共同研究成果及び2月5日の共同研究発表会の模様を掲載した『石見美術』第3号を刊行。

### (4) 参加者の反応

2月5日(土)、「いわみ美術回廊」の取り組みについての共同研究発表が行われた。その際に参加した約80名の方々からの主な意見は次の通りである。

- 島根県立石見美術館とこれまでの「いわみ美術回廊」加盟館が一層協力して、新しい石見の文化を全国に発信して欲しい。
- これからも地道な活動を続けて欲しい。
- 島根県立石見美術館は山口・島根の美術館と連携を大事にして欲しい。
- 今日の事例発表を聞いて、石見に住むことが楽しくなった。他県から来られた人々が石見を回ってくださるのがうれしい。
- 「いわみ美術回廊」の存在について、もっとPRをすべきではないか。
- 「いわみ美術回廊」が出来て、この地にこんなに個性的な美術館があるということを知った。もっともっと誇りをもちたい。

### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

「いわみ美術回廊」加盟館の学芸員・職員が、「地方の美術館の連携」というテーマでこれまでの活動を報告した。このような研究会は「いわみ美術回廊」発足以来、初めての試みであった。

「いわみ美術回廊」発足から丸3年が経った。今回の共同研究を通して、これまでの活動過程を振り返り、3年間の成果を確認し、そのうえで問題点を把握することが出来た。今後のあり方について、それぞれの美術館の学芸員・職員が認識を共有することが出来たのも成果の一つであった。

この共同研究以後、入館者が飛躍的に増加したことはない。また、目をひくような企画展が実施されている事実もない。「目に見える形」での成果はまだ現れていないものの、問題点を克服していく中で、これまで以上に、より一層の連携が進むのではないかとと思われる。